

## 平成 29 年度岡山大学学位記授与式 式辞

本日ここに、ご来賓の皆様のご臨席を仰ぎ、平成 29 年度学位記授与式を執り行うことは、卒業生、修了生の皆さんはもとより、本学にとっても、誠に嬉しく喜ばしいかぎりであります。学部学生 2,238 名、別科・専攻科生 40 名、大学院修了生 920 名、合わせて 3,198 名の皆さんが、岡山大学を卒業します。おめでとうございます。岡山大学を代表して、心よりお祝いを申し上げます。皆さんは、この岡山の地で、同級生、先輩や後輩、指導をされた先生方、また地域の方々など、多くの人と知り合い、切磋琢磨して本日を迎えられました。長い間皆さんを温かく支えてくださった、保護者やご家族、関係者の皆様にも、心からお祝いを申し上げたいと思います。

思い起こしますと、私も、今から 43 年前の 1975 年、皆さんと同じようにこの岡山大学を卒業しました。1975 年といえば、丁度岡山一博多間の山陽新幹線が開通した年でもあります。十年ひと昔という言葉がありますが、43 年前というと、正に“大昔”の感があります。皆さんが卒業されて、社会人としての人生のときを過ごされる時には、おそらく実感されることと思いますが、時間というものはとても早く過ぎて行きます。皆さんが本学で過ごした数年間の学生生活を振り返った時、最も楽しかったと印象に残っているのはどんなことでしょうか。また、最も大変だったと思い出されることは何でしょうか。私も、あっという間の四十数年を経て、昨年 4 月から学長を拝命し、本日、皆さんを最初の卒業生として送り出すこととなりましたのには、感慨の深いものがあります。

松尾芭蕉の俳諧の理念の一つに「不易流行」という言葉があります。「不易流行」とは、時を超えて決して変わることがないものを忘れず、時に応じて新しい変化を取り入れることを表す言葉です。本日ご卒業される皆さんの前には、激しく変わりゆく時代が待ち受けていますが、私は学長そして先輩として、皆さんがそれぞれの人生に希望をもって旅立つこの時にあたって、これから先も変わらずに持ち続けて欲しい「不易流行」である、本学の伝統と精神について、ひとこと述べさせて頂きたいと思います。

この岡山大学の津島・鹿田両キャンパス並びに研究所、附属学校園がある吉備の国・岡山は、造山古墳など、古代から日本の歴史的潮流と深い関わりを有する土地です。江戸時代には、池田光政公による庶民のための閑谷学校の設立にはじまり、津山藩の箕作家、宇田川両家

による蘭学、また19世紀幕末期の備中松山藩で活躍した陽明学者、山田方谷による藩財政と教育の再建が行われました。そして大正時代には、大原孫三郎によって「倉敷労働科学研究所」が設立されるなど、その時代時代が抱える社会の課題解決に取り組む「実践学術」が盛んな土地でもあります。彼ら偉大な先人たちが共通して抱いていた想い、それは「自分たちが暮らすこの社会の持続可能性を追究すること」であったのではないかと、私は考えています。いわばこれは、岡山という土地に受け継がれてきた『遺伝子』と呼んでも良いのではないのでしょうか。

そして、その岡山を拠点とする本学も、しっかりとその想いを継承しているのです。皆さんには、もう一度本学の理念と目的を心に刻んでいただきたいと思います。本学の理念は、『高度な知の創成と的確な知の継承』、そして本学の目的は『人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築』です。この岡山そして岡山大学で学んだ皆さんの魂には、既に「社会課題解決に向けた実践の遺伝子」がしっかりと組み込まれているのです。

私は学長に就任して直ぐに、「しなやかに超えて行く実りの学都へ」という榎野ビジョンを掲げ、岡山大学が一丸となり、組織、団体、地域や国々などの境界を乗り越えて繋がる取り組みを推進してまいりました。

皆さんは、SDGs「Sustainable Development Goals」という言葉をご存知でしょうか。これは2015年9月に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で提案された、世界を変えるための17目標と169のターゲットのことです。略して「SDGs」(エスディーゼズ)、日本語では「持続可能な開発目標」と呼ばれています。

これまでも本学は、ESD、すなわち持続可能な開発のための教育や地域と共に世界と繋がるグローバル実践型社会連携教育の全学展開を推進してきましたが、今年度からは、SDGsへの達成貢献も本学の重要な事業のひとつに加わっています。

本学で取組まれているグローバル実践型社会連携教育では、社会が求めているニーズを認識して課題を設定することから始め、問いを見出して仮説を考え、その根拠を集め、結果を共有して実践するという、課題解決に向けたアカデミックな実践サイクルを学ぶことが求められています。皆さんが、在学中講義や実習、フィールドワーク、グループ討議や学術集会での発表など、担当教員の指導の下で熱心に学び、取り組んでこられた一連のプログラムは、ただ単に単位や課程を取得・修了するためだけのものではなく、まさに先ほどのアカデミックな実践サイクルを体験・習得するための重要なプロセスでも

あったのです。岡山大学でいう「不易」とは、課題解決実践の精神を持つことなのであります。

そして、“大学で学ぶ”ことは、「流行」という側面も持ち合わせています。それは、大学という世界共通の社会課題を深く探究する、その最前線に身を置く事で、皆様の持つ『実践の遺伝子』を覚醒させるのに最も重要な、“アントレプレナーシップ”が養成されることです。アントレプレナーシップとは、日本語で「事業を起こす」という意味での起業家精神をいい、組織の外にあって、常に課題意識を持ち、新しいことに挑戦することで既存の社会をよりよく変革しようとする強い心構えのことです。一方、組織の中において、同様な心構えを持つ事はイントレプレナーシップと呼ばれています。

先に紹介しました山田方谷は、その著書の中で「事の外に立ちて、事の内に屈せず」という言葉を残しました。「事の外に立つ」とは全体を見通す見識を持って大局的立場に立つ事を言い、「事の内に屈する」とは細部に捉われて全体を見通す見識を持たない事を意味します。細部に捉われるのではなくて物事を俯瞰して見る事が重要だと方谷は説いており、まさにアントレプレナーの偉大な先人がこの岡山の地で活躍されたことは、岡山にとって大変誇るべきことであります。そして、皆さんが指導を受けた先生方は、教育・研究・社会貢献の様々なフィールドで、前人未踏の領域を開拓し続ける“知の冒険者”であり、言葉を変えれば、“学術界のアントレプレナー”と言えます。つまり、本学に入学し、学び、卒業・修了する過程において、皆様には気がつかないうちに本学の伝統である“実践力”と大学ならではの“アカデミックなアントレプレナーシップ”の精神が身につけておられますので、何事に対しても自信を持って取り組んでいただきたいと思えます。

最初に「十年ひと昔」と申し上げましたが、情報が爆発的に増加し、社会の情勢が大きく変化しつつある現代は、もはや「一年ひと昔」といった状況です。これからの世界は、I o T、ビッグデータ、ロボットや人工知能が導く人類史上空前の情報革命と職業革命などによって、Society5.0 と呼ばれる新たな社会パラダイムに移行しつつあります。しかし、今後どんなに科学技術の課題解決が前進したとしても、常にそこから新たな社会課題が生まれ、我々はその解決に取り組み続けなければならないでしょう。

皆さんがこれから本学の卒業生・修了生として受け継いでゆかれる本学で培った「不易流行」である「社会課題解決に向けた実践の遺伝子」の伝統と、「アカデミックなアントレプレナーシップ」の精神は、必ず皆様の大きな“強み”になってくれるものと期待しております。

す。今年度有り難い事に本学は、日本政府から第1回「ジャパン SDGs アワード」の「パートナーシップ賞」という名誉ある特別賞をいただくことができました。私たちは今後もますます「実践の岡大」という伝統をさらに磨き、皆さんと共に様々な課題の解決に挑戦したいと思いをします。

最後に、「人生100年時代」とよく言われていますように、皆さんが本学を巣立った後に過ごす時間は大変長く、またその間に起きる変化も非常に大きなものであることが予想されます。これから皆さんが職場や家庭などで直面する新たな課題を解決しようとする時、それまで社会で経験したノウハウや大学そして大学院で学んだことだけでは、望ましい結果に辿りつかないことがあるかもしれません。そのような時に是非思い出していただきたいのは、「母校で学び直す」という選択肢です。今後本学は、リカレント教育すなわち社会人の学び直しの促進とそのための新たな体制構築に全力を挙げて取り組んで参ります。「社会課題解決に向けた実践の遺伝子」を持つ皆さんが、先輩卒業生・修了生として再び本学で学んでいただくことで、後輩である在校生や所属する研究室にも新たなエネルギーが注入され、皆さんが想像される以上のシナジー効果が起こるものと考えます。本学のアラムナイ、すなわち同窓会や地方支部は、日本各地に多く存在しているだけでなく、世界中にも広がっています。また、毎年秋には全同窓生に向けたホームカミングデーも開催していますので、ぜひホームページやSNS等で卒業生・修了生向けの情報を収集し、いつでも気軽に母校の広く緑豊かなキャンパスに戻ってきていただければと思います。本日もご臨席下さったご家族、保護者そして関係者の皆様、ぜひ今後も岡大キャンパスに足をお運びいただき、本学の多彩な学びの環境をご体感下さい。

卒業生・修了生の皆さん、明日からは社会人あるいは大学院生としての新たな生活が始まります。私たち全教職員は、これからも皆さんが、母校岡山大学で学んだ伝統と精神を胸に、それぞれの新しい職場などで、自信を持ってのびのびと活躍して下さることを心から祈っています。またいつの日か、成長した皆さんにお会いできる事を楽しみにし、私からの餞の言葉とさせていただきます。

本日はご卒業、誠におめでとうございました。

平成30年3月23日

岡山大学長 榎野博史